

刑法/江木衷(講義) ; 畔上啓策(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

このPDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級)(原裝本デジタル・データ)から、刑法の部分を抽出して編集したものである。

講義録 19 号の目次には「刑法」と表示しているが、本文冒頭には「日本刑法」と表示している。

ページ表示に誤植がある。42 ページの次のページは 33 ページと表示し、以降順を追ってページを振っている。しかし、本来は、43 ページから順にページを振るべきものである。

日本刑法

法學士 江木 衷 講義

校 友 畔 上 啓 策 編 輯

緒言

緒言

法律ノ學問ハ基タ六ヶ敷キモノタルハ諸君ノ熟知セラル、所ナルヘケレト刑法學ハ其ノ六ヶ敷學問ノ中ニテ又最モ六ヶ敷學問ナリ日本ニハ刑法ト云フ成典アレハ刑法ヲ學フハ民法其他成文ナキ法律ヲ學フヨリ容易ナルカ如クニ思フモノアレトモ予ハ成典アルガ爲メニ猶更困難ノ學問ニ成リタルコトト考ヘ且又日本ノ中ニハ如何ナル大學者カアルカハ知ラネド刑法ヲ以テ簡易ノ學問ノ如クニ思フハ却テ其人ノ淺識ヲ披露スルニ異ナラスト心得居ルコトナリ幸ニシテ本校ニハ岡山先生アリ例ノ活潑銳利ナ

ル腦髓ノ分析カヲ以テ日本刑法ヲ講述セラレ縱横上下右往左往
ニ法理ノ蘊奧ヲ敲キ出シ我刑法ノ學問上ニ一大利益ヲ與ヘラル
、コトナレトモ先生ノ多忙ナルハ余ノ熟知スル所ナレハ未タ之
ヲ以テ先生ノ自ラ足レリトセラル、コトナキヲ信ス是レ余カ此
講筵ニ臨ンテ更ニ日本刑法ヲ講セシトスル所以ナリ淺學薄識素
ヨリ岡山先生ノ萬一ノ遺漏ヲ助クルニ足ラスト雖モ余カ重復ノ
講義ニシテ或ハ諸君ヲシテ刑法ノ學理ヲ妄失セシムルコトナキ
ヲ得ハ余ノ大幸トスル所ナリ諸君ノ學成リ業卒ツテ本校ヲ去ル
ノ日ニ臨ミ本校カ諸君ヲシテ刑法ニ通曉セシメタリトノ榮譽責
任ハ予ハ舉テ之ヲ岡山先生ノ勞ニ歸セントス
余カ講義ノ目的斯ノ如クナルヲ以テ諸君ハ余ノ講述ニ依頼セス
シテ自ラ學理ヲ研究スルコトヲ勉メサル可ラス一ト通り日本刑

法ヲ講シタル著書ハ世ニ少ナカラサレハ講義ニ先テ刑法ノ正條
 ト此等ノ著書ヲ一讀セラル可シ即チ刑法學ノ善知識トテ吾モ人
 モ知ル宮城先生ノ刑法講義堀田先生ノ刑法釋義尙ホ手輕ナル者
 ハ高木先生ノ刑法義解等何レモ言分ナキ良書ニシテ皆ナ本校ノ
 書籍室ニ備ヘアルコトナレハ諸君必ス熟讀ヲ怠ルコト勿レ

刑法諸主義

刑法主義ヲ論スル前ニ刑法ノ沿革、刑法ト他ノ法律トノ關係、其他論ス
 ヘキモノ數多ニシテ今突然刑法主義ヨリ論シ起スハ頗ル其ノ順序ヲ
 失シタルモノニ相違ナキモ講義ノ時日ニ定限アレハ余ハ全體此等ノ
 緒論ヲ全廢シ直チニ刑法ノ正文ニ論及セントスルモノナレトモ刑法
 主義ハ通常一般ノ著書中ニモ散見シ人口ニ膾炙スル所ナレハ今茲ニ
 一言ノ注意ヲ爲スニ過キス其ノ詳細ヲ論シ盡サント欲セハ刑法主義

い Absolute theories
 ろ Relative theories
 # Combined theories

絶体主義

ノ一事ニ一學年ヲ要スルモ亦未タ足ラサルヘシ

刑法主義ニ數多アルハ諸君カ已ニ諸書ニ於テ熟讀セラレタルコトナ
 レハ今玆ニ論スルコトナシト雖モ諸君ノ學ヒタル此等諸主義ヲ大別
 スレハ自ラ左ノ三種ニ過キストス

第一 絶体主義

第二 相對主義

第三 折衷主義

第一 絶体主義

絶体主義トハ則チ刑ハ刑ナリト云フモノニシテ他ニ刑罰ノ目的ナキ
 モノトスルモノナリ此種ニ屬スル所ノ主義ニ二様アリ
 其一 治癒主義
 犯罪ヲ罰スルハ其ノ罪ヲ癒エシムルニ外ナラストスルヲ以テ其ノ主

^Indemnity theory
εRetribution

℞Healing theories
℞Rescission theory

義トス而シテ今治癒ト云フトキハ相對主義ノ一ナル改良主義ト同シ
様ニ思ハルレトモ改良主義ニ於テハ人間ヲ改良スルコトヲ目的トス
レトモ治癒主義ニ於テハ犯罪ヲ改良シ刑罰ハ只タ其罪ヲ癒エシムル
モノトスルヲ云フ此治癒主義ノ中ニ又二主義アリ(甲)ハ復舊主義ニシ
テ獨逸有名ノ學者キユツツ氏ノ主張セシモノナリ此主義ハ罪人ヲ罰
スルニハ舊ニ復スルナリト即チ最初有セシ正理ヲ破ル者ハ犯罪人ナ
リ之ヲ罰スルハ其人ヲ舊ニ復シテ罪ナキニ至ラシムルモノナリトス
(乙)ハ賠償主義ニシテ凡ソ損害ヲ受ケタルトキハ裁判所ニ訴ヘ民事ノ
賠償ヲ要ムルト同シク刑罰ハ犯罪ヲ賠償スルモノトス只タ民事ニ於
テハ實物上ノ賠償ナルト刑事ニ於テハ無形的ノ賠償ナルトノ差異ア
ルモノトスルナリ

其二 應報主義

刑 注

五

五

相對主義

應報主義ニ於テハ正理ニ背キタルコト卽チ不正ノ所爲ニハ之レカ應報ナカル可カラス刑罰ハ其不正ノ所爲ヲ埋メ合シ満足セシムルモノトスルナリ或ハ之ヲ純正主義ト云フ此主義中ニ三派アリ(甲)ハ神ノ命令ニ背キタル應報(乙)ハ道德ノ命令ニ背キタル應報(丙)ハ法律ノ命令ニ背キタル應報ナリトスヘーゲル、カント氏ノ如キ有名ノ哲學者ノ主張セシモノ卽チ是ナリ

第二 相對主義

相對主義ヲ講スル前ニ一言ス可キモノアリ諸君モ知ラル、如ク世上民約主義ヲ唱フルモノアリ此主義ハ伊太利ニ於テハベツカリヤ獨逸ニ於テハフヒテ佛蘭西ニ於テハルソーノ諸氏盛ニ之レヲ主張セリ然レトモ此說ノ採ル可ラサルコトハ此ニ余輩ノ駁スル迄モナク既ニ人皆ナ之ヲ知レリ此主義タル最早刑法上ニ齒セラレサルモノナリ

却說相對主義ニ於テハ絶体主義トハ異ニシテ刑法ハ何カ目的アリテ其目的ヲ達スル爲メニ存スルモノニシテ決シテ刑ハ刑ナリト云フカ如キ單純ナルモノニアラストス此種ノ主義ハ概ネ國家ノ治安社會ノ安寧ヲ維持スルヲ以テ其目的トスレトモ此目的ヲ達スル方法ハ又各々相異ナリ各一派ノ主義ヲ爲ス即チ懲嚇主義、警戒主義、必要主義、豫防主義、改良主義等諸君ノ常ニ耳ニセラル、所ニシテ今更ラ予カ講述ヲ要スルコトナキモ此等各主義中ニモ亦數多ノ小派アリ皆ナ有名ナル刑法大家ノ主張スル所ナリ故ニ第三種即チ折衷主義ノ學者ノ駁論スルカ如ク容易ニ其論據ヲ破リ得ヘキ拙劣ノ主義ニアラサルコトヲ注意セラルヘシ

第三 折衷主義

折衷主義トハ他ノ刑法講義書ニモアル如ク之レハ相對主義ト絶体主

義トチ連合セシモノナルヲ以テ絶体主義ノ其一ト相對主義ノ其一ト
 チ合スルコトヲ得又其二三若クハ悉皆チ併合セシムルコトヲモ出來
 得ルモノナリ故ニ其主義ハ種々様々ニ變化シテ數理上所謂排合式ニ
 依リ多數ノ折衷主義ヲ發生スルヲ得レトモ今日普通ニ稱スル所ノ折
 衷主義ナルモノハ其折衷ノ定限ニ確タル境界ナクシテ大ニ漠然タル
 所アリテ遙ニ其他ノ主義ニ劣ルノミナラス此折衷主義ナル者ハ其理
 論上ニ於テモ余ハ甚タ感服スルニ足ラサルモノナレトモ兎ニ角我刑
 法ハ此折衷主義ニ基キタルモノト聞ク而シテ我カ刑法ノ所謂折衷主
 義ナル者ハ果シテ如何ナルモノナルヘキヤ我カ國諸學者ノ説ク所ハ
 概子疎末ニシテ更ニ其詳ナルヲ知ルニ由ナク又我刑法ノ條文ヲ見ル
 ニ如何ナル點カ果シテ折衷主義ニ出テタルカ余ハ折衷主義ハ即チ無
 主義ナラサルカヲ疑ハサルヲ得ス我カ國ノ刑法學者漠然トシテ折衷

主義ハ道德ト公衆トニ基キタルコトヲ告クルノミ今一例ヲ擧ケテ之
レヲ説カンニ我刑法ニ於テハ水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シ
タル者ハ田野ニ於テ穀類菜菓等ヲ竊取シタルモノヨリ其刑ノ重キコ
ト凡ソ五倍トセリ水火震災ニ際シテハ人々其ノ財産ヲ保護スルノ方
法ヲ設クルニ暇アラス其ノ財産ハ之ヲ公衆ノ信義ニ委スルヲ以テ法
律ハ公益上ヨリ此等ノ財産ニ對スル犯罪ヲ重シトセシニ由ル乎田野
ノ產物モ亦是レ公衆ノ信義ニ委テ人々常ニ之ヲ保護スルノ方法ヲ設
ケサルモノナリ公益上ヨリ之ヲ言ハ、法律ノ彼レニ厚フシテ此ニ薄
キノ理由アルヘカラス水火震災ニ乘シテ財物ヲ竊取スルモノハ其心
術之ヲ平日ニ行フニ忍ヒサルモノアルニ出ツ道德上ヨリ之ヲ言ハ、
其罪甚タ輕シト云ハサルヲ得ス法律ハ特ニ之ヲ嚴罰スルノ理由アル
可ラス白晝田野ノ菜菓ヲ竊ムモノト豈ニ彼此アラシヤ論シテ茲ニ至

第一編 總則

第一章 法例

日本ノ文字ノ上テ法例ト云フ語ヲ解スルコトハ甚タ六ヶ敷シ様ニ思
 ハル、コトナレトモ此レハ法律ノ適用ト云フコトナルハ佛文ニ譯シ
 タル日本刑法ノ文字ヲ以テ明カナルコトナリ學者ハ法例ノ關スル所
 ハ啻ニ刑法ノミナラス法律一般ニ係ルモノ、如ク註解スル者多ケレ
 トモ此法例ハ成程此ノ刑法即チ刑典ノミニ限リタルモノニハアラサ
 ルヘケレトモ一般刑事クリミナルノ法律ニアラサレハ適用スルコト能ハサルナ
 リ既ニ佛文ニ於テハ刑法一般ノ適用ト譯シタリ扱法律ノ適用トハ場
 所ト時ト事ト人トノ四ツニ關スルモノニシテ我刑法ニ於テハ第一條
 ヨリ第五條迄ニ之ヲ示シテアルコトナカラ場所及ヒ人ノコトニ付テ
 ハ現行刑法ニ明示セズ宜シク法例中ニ入ルモノナルヲ以テ草案中ニ

之ヲ示シタルハ適當ナリ但第一條ハ罪ノ種類ヲ示シタルモノニシテ
之ヲ法律ノ適用トシテ法例中ニ列シタルハ余ハ其意ヲ解スルコトヲ
得ス又第二條モ然ルモノ、如シ左レト此條ハ法律ヲ解釋シテ比附援
引スルコトヲ許サ、ルモノナルコトヲ云フタルモノナレハ之レヲ解
釋ノ方法ニ關スル法律ノ適用トスルトキハ此條ヲ法例中ニ置クモ差
支ナキコト、思ハル

第一條

第一條 凡ソ法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種トナス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

抑モ罪及ヒ刑トハ何ソヤ之ヲ理論上ヨリ説クトキハ六ヶ敷コトノ限
リナレトモ此席ニテ其細密ノ議論ヲスルトキハ此議論許リニテ一學

年カ濟ムカモ知レサレハ暫ク之ヲ略シ後日ヲ待テ更ニ諸君へ御話シ
スルコトアルヘキナリ
或ル學者ハ罪ヲ解シテ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ナリトセリ是レ法律
上ノ罪ハ法律上ノ罪ナリト云フニ過キサルナリ此解敢テ當チ失ヒタ
ルモノト云フヘカラサレトモ如何ナル所爲カ罪即チ法律ニ於テハ罰
スヘキモノナルヤ否チ定ムルニ足ラサルモノナリ此他學者間ニハ種
々ナル定義多シト雖モ我現行刑法ニ於テハ別ニ其定義ヲ下サズ唯罪
ヲ別テ三種トナスコトヲ明言セリ我立法官カ學者ノ議論ハ學者ニ委
チタルハ天晴ノ手際ト云フヘシ
或學者ハ曰ク「法律ニ於テ罰ス可キ罪云々ト云フカ故ニ道德ニ於テ罰
ス可キ罪モアルコトヲ意味シタルカトノ疑モ生スヘキモノナレトモ
是レハ我現行刑法ノ文辭ヲ咎ムルモノニシテ我立法官モ法律外ニ罪

アルコトヲ認メタル者ニアラスト然レトモ余ハ此論ニ服スルコト能
 ハス何トナレハ罪ノ中ニハ道德上或ハ宗教上ニ關スルモノアリ此等
 ハ宜シク各其範圍内ニ於テ道德上又ハ宗教上ノ制裁アリ法律上ノ罪
 ト混同スルコトナクンハ自ラ足レリ故ニ我立法官ハ法律外ニ罪アル
 コトヲ認メンヤ否ハ茲ニ論スルモ無益ナレトモ此條ニ付キ法律上却
 テ疑點ノ生スヘキハ第一條ノ法律ノ文字ナラスシテ可キノ文字ナリ
 即チ罰ス可キ罪云々トアルヲ以テ法律上罰セサル罪アルカトノコト
 ナリ法律上罰セサル罪ナキコトハ勿論ノコトニテ此點ニ付テハ刑法
 ハ只其書キ方ヲ不充分ニナシタルヨリ疑義ヲ生スルニ至ラシメタル
 モノト云フヘキモ我立法官カ道德上ノ罪アルコトヲ認メシヤ否ニ
 關スル疑義ヲ生スルヨリ寧ロ此事ニ付テ疑義ヲ生スルコト却テ尤ナ
 レ

此刑法ニ一重罪、二輕罪、三違警罪ノ三トセシモ何故此區別ヲ爲セシヤ
曰ク是レ便宜上ニ基キ立テタルモノナリトス其便宜トハ刑ノ輕重、裁
判管轄或ハ其手續キテ違ヘル如キ是レナリ然レハ如何ナルモノハ重
罪ニシテ如何ナルモノハ輕罪ナリヤ又違警罪トハ如何ナルモノナリ
ヤ法律ハ之レヲ明ニセス唯刑ノ輕重ヨリ其種類ヲ定メ敢テ性質上ヨ
リ之レヲ定メサルナリ(違警罪ヲ除キ)即チ第七條以下ノモノニ由リテ
此區別ヲナシタルモノナリ
次ニ一言申置ク可キハ學者ニ由リテハ此條下ニ於テ罪ノ類別ヲ說ク
者アリオルトランノ如キ是ナリ例ヘハ一行犯不行犯、二有意犯無意犯、
三國事犯非國事犯、四現行犯非現行犯、五即時犯繼續犯、六軍事犯常事犯、
ト云フ如ク區別シテ論スル者アレトモ余輩考フルニ罪ノ類別ノコト
ハ此條下ニ講ス可キモノニアラス此等區別ハ各其條下ニ至リテ分チ

論大可キナリ即チ同シ年齢ニモ民法ハ民法刑法ハ刑法又宗教ハ宗教
上ニ於テ其法律ノ目的ニ從ヒ區別スヘシ然ルニ附帶犯非附帶犯繼續
犯連續犯ノ如キモノハ全ク治罪法上ノ區別ナリ唯有意犯無意犯國事
犯常事犯等ハ刑法上ノ區別ナレトモコハ刑法以下各條ノ下ニ於テ講
述スレハ則チ足レリトス

第二條

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ

罰スルコトヲ得ス

此條ハ第一條ト違ヒ正ニ法律ノ適用ヲ示シタル者ナリ故ニ此條ヲ以
テ法例中ニ置クヲ至當トス如何トナレハ此條ハ解釋上寬嚴ノ程度ニ
關スル方法ヲ示シタルモノナリ學者或曰ク我刑法ハ第一條ニ於テ罪
ノ種別ヲ示シ第二條ニ於テ其罰スヘキモノヲ掲ケ其目的ヲ指シタル
者ナリト余ハ未タ其說ニ感服セサルナリ論者ノ說ノ如クハ法律ノ正

條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖之ヲ罰ゼサルハ當然ノコトナリ刑法ノ
正文ヲ要セサルコトナリ蓋第三條ハ只解釋ノ方法即チ刑法ハ嚴格ニ
民法ハ寬緩ニ之レヲ解釋ス可キコトヲ示シタルナリ換言スレハ刑法
ハ比附援引スルヲ許サス然レトモ民法ハ之レヲ許スモノナリ加之ス
民事ニ於テハ法律ニ正條ナシトテ裁判セサルトキハ罰セラル、コト
ハ佛民法ニ明記セルヲ見テモ本條ハ民法其解釋ノ方法ヲ異スヘキ
コトヲ示シタルモノナリ此コトハ法律解釋學第四章第五節ニ論述セ
リ諸君就テ見ルヘシ
又第二條ニ所爲ト云フコトアリ是レハ爲ス可キコトヲ爲サス爲ス可
ラサルコトヲ爲シタルモノトフ二者ヲ含有スルコトハ諸君ノ法理學
ニ於テ研究セラレタルコトナルヘシ但シ茲ニ一ノ注意スヘキコトア
リ即チ通常世人ハ人ヲ殺ス所爲ナドト云フコトアレトモ元來人ヲ殺

スト云フコトハ天帝ノ外人間ノ出來得サル話ニシテ人ノ殺サレテ死
スルヤ爲害者之レヲ殺シタルニアラスジテ被害者自カラ死シタル者
ナリ爲害者ハ切ルト云フコトコソ行ヒタルモ未ダ殺シタリト云フコ
トヲ得ス所謂人ヲ殺ス所爲トハ他人自ラ其生命ヲ失フニ足ルベキ源
因ヲ與フルコトヲ云フノミ

諸テ是ヨリ時、場所、事、及ヒ人ニ關スル刑法ノ適用ヲ示サン

時ニ關スル刑法ノ適用

時ニ關スル法律適用ノコトハ第三條ニ規定シタルモノナリ即チ法律
ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得スト云フコト是ナリ此レハ
法律ハ頒布以前ノモノニ適用スルコト能ハスト云フ譯ナレトモ我刑
法ノ此正條ヲ以テ法律ハ既往ニ遡ラスト云ヘル原則ニ外ナラストス
ルニ至テハ誤レリ抑モ法律ハ決シテ既往ニ遡ラサルモノニハ非サル

場所ニ關スル刑法ノ適用

ナリ其コトハ法律解釋學第四章第二節第三則ニ詳述セリ必竟法律ノ
既往ニ遡ラフト云フ所以ノモノハ唯既得權ヲ害スルコト能ハスト云
フコトヲ示シタルモノニ過キサルナリ故ニ訴訟法ノ如キ現ニ既往ノ
モノニ及ホシ居レリ故ニ我刑法ハ屹度頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス
コトヲ得スト定メタルモノニシテ他ノ法律ヲ示シタルモノニアラス
但シ刑法ハ既得權ヲ害スルカ如キコトナキノミナラス却テ寛ナルモ
ノハ既往ニ及ホスコトヲ得ルモノトス是レ第三條ノ但書ニ若シ所犯
頒布以前ニ在リテ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從
テ處斷ス云々ト規定シタルナリ又此新舊比較法ハ別ニ布告ヲ以テ定
メダレハ單ニ理論上寬嚴ノ差ヲ以テ實際ノ應用ヲ爲スコト能ハサル
コトヲ注意ス可シ

場所ニ關スル刑法ノ適用

刑法

十九

一七

一六

草案第四條

場所ニ付テ刑法ノ適用ヲ論スル場合ハ内外國ニ於テ刑法ノ管轄ヨリ
來ルモノナリ故ニ是レハ内國ト外國トニ於ケル犯罪ノ關係ヲ說クモ
ノナリ此事ハ刑法ニ規定セス草案ニ見ル所ナリ古來學者ノ說ニ刑法
ハ土地ヲ管轄スト云ヒ又人ヲ管轄スト云フ英吉利刑法ハ全ク土地ニ
關スルモノトセリ全体ニ刑法ハ土地人又ハ事ニ關スル三ツノモノ合
シテ出來ルモノナリ決シテ此一方ヲノミ推シテ論スルコトヲ得サル
ナリ今草案ニ付テ論センニ其第四條ニ曰ク
日本人外國ニ在テ日本國ノ安寧ニ關シ又ハ日本ノ貨幣及ヒ貨幣ニ
代用スル銀行ノ證券ヲ偽造變造シ若クハ國璽官印記號極印ヲ偽造
スル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ日本ノ法律ニ依テ處斷ス若シ其罪ヲ
犯シタル外國ニ於テ己ニ確定ノ裁判ヲ受ケタル者ハ再ヒ之ヲ裁判
スルコトナシ

例へハ甲ナル者英國ニテ日本人日本ノ貨幣ヲ偽造スルトキハ之レヲ罰ス是レ我日本國ノ安寧ニ對シ日本國ヲ害シタルモノナレハナリ而シテ但書ニ於テ外國ニ於テ已ニ確定ノ裁判ヲ受ケタル者ハ再ヒ之ヲ裁判スルコトナシトセリ其故何ソヤ外國ノ裁判ハ日本ニ於テハ毫末ノ効力ナシ日本政府ハ何故外國政府ノ罰セシ者ニ付テハ再ヒ之ヲ罰スルコトヲ爲サ、ルヤ我日本國ニ對スル犯罪ハ日本人法律ヲ以テ罰スルニアラサレハ満足スヘキモノニアラス凡ソ外國ニ在リテ日本貨幣ヲ偽造セシ罪ノ如キハ通常外國ニ於テハ之ヲ罰セサルコトナレトモ好シ之ヲ罰スルトモ其ハ極メテ輕キモノナリ然ルニ日本政府カ其裁判ヲ甘シテ再ヒ之ヲ罰セサル所以ノモノハ何ソヤ余ハ其理ヲ解セサルナリ

草案ノ意ニ從へハ此ノ條ノ罪ハ犯人カ日本ニ歸リ來ラサルモ罰スル

草案第五條

コトナリ凡ソ日本ニ來ラサルモノヲ罰スルハ實際爲シ能ハサルコト
 ナレド是レハ欠席裁判ト云フ空炮ヲ打ツテ自ラ慰ムルモノナレトモ
 空炮ハ當ル氣遣ナキカ故ニ犯人ハ「べろ」ヲ出シテ外國ニ小躍リシテ居
 ルコトナリ設令ヒ日本ノ警察官カ外國ニ行キ之ヲ捕ヘントスルモ是
 ハ不法ノ逮捕監禁罪トシテ却ツテ外國ニ於テ罰セラルヘキナリ殘念
 至極ノ事ナレトモ是レカ道理デ致シ方ナキコトト覺悟スヘキモノナリ
 草案第五條ニ曰ク

日本人外國ニ在テ前條ニ記載シタル以外ノ重罪輕罪ヲ犯シタルト
 キハ左ノ條件ノ具備スルニアラサレハ日本ノ法律ニ依テ處斷スル
 コトヲ得ス

ト前條ハ日本國カ實際ニ於テ害ヲ受クルトキナリ本條ハ其他ノ重罪
 輕罪ヲ犯シ外國ノ安寧ヲ破リタル場合ヲ規定シタルモノナリ其罪ヲ

構成スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、罪ヲ犯シタル國ニ於テ未ダ確定ノ裁判ヲ受ケサル時

二、犯人日本國ニ歸來リ又ハ外國ヨリ交付ヲ得タル時

三、日本國ノ法律及ヒ罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ照シテ重罪輕罪ト爲
ス可キ時

四、被害者又ハ外國政府ヨリ日本政府ニ告訴告發ヲ爲シタル時

五、罪ヲ犯シタル國ニ於テ大赦ヲ受ケサル時

六、罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ照シ公訴ノ期滿免除ヲ經サル時

諸何故日本人外國ニ在テ前第四條ニ記載シタル以外ノ重罪輕罪ヲ犯
シタル者ヲ罰スルヤ日本人英國ニ於テ竊盜罪ヲ犯シ又姦通罪ヲ犯シ
タレハ日本國ニハ利害ノ關係ナク唯英國カ其安寧ヲ害セラレタルノ
ミ然ルニ日本政府ノ之レヲ罰スルハ余輩ノ解セサル所ナリ尤獨逸ニ

於テハ此等ノ犯罪者ヲ罰スト雖モ英國法ニ於テハ其罪ヲ問ハサルナ
 リ然レハ英人カ日本ニ於テ金ヲ持逃ケシテ英國ニ歸ルモ其所爲ヲ罰
 セラレサルニ此草案アル以上ハ日本人カ英國ニ往キ金ヲ持逃シテ歸
 リタルトキハ日本ニ於テハ其罪ヲ問フモノトナス甚タ不權衡ノ極ナ
 レトモ右ニ列舉シタル條件ニ依レハ少シク其弊ヲ防キシモノニ過キ
 ス

第一項ニ確定ノ裁判ヲ受ケサルトキトアレトモ確定裁判ヲ經未タ其
 執行ヲ了ラサル中ニ日本國ニ逃ケ歸リタルトキモ之ヲ罰セサルヲ得
 ス但シ已ニ執行ヲ了リタル日限ハ刑期ニ算入シテ可ナラン獨逸刑法
 ハ現ニ斯ノ如ク定メタリ是レハ明カニ草案ノ欠點ト思ハル、ナリ又
 罰金ノ刑ニテ其幾分ヲ外國政府ニ納メタルトキハ日本政府ハ只タ其
 餘分ノミヲ徴収スヘキヤ否此事ニ付キテハ學者間數多ノ議論アリ

草案第六條

次ニ論ス可キハ違警罪ノコトナリ草案第五條第三項ニ依レハ違警罪ハ之レヲ罰セサルモノ、如シ余ハ其何ノ理ニ基キシモノカ之レヲ知ラサルナリ余思フニ違警罪モ此罪ノ中ニ入レ置ク方或ハ然ラン決シテ重罪ト輕罪トノミニハ之レヲ限ラサルナリ且國ニ由リテハ重罪輕罪違警罪ノ區別判然セサル所アリ然ルニ我國法ノミ違警罪ノ所爲ヲ不問ニ措クハ余ノ了解シ能ハサル所ナリ

草案第六條ニ曰ク

日本人ハ外國政府ヨリ處刑ノ爲メニ交付ヲ求ムルト雖モ之ヲ交付セズ

日本人外國ニ於テ罪ヲ犯シ再ヒ日本ニ逃ケ歸リタルトキハ喩エ外國政府ヨリ其犯罪人ノ交付ヲ求ムルコトアリトモ之ヲ交附セスト云フニ在リ例ヘハ自家ノ小兒カ惡戯ヲナシテ譴責セサル可ラサル時ハ己

草案第七條

草案第六條

レ自カラ之ヲ譴責ス可クシテ敢テ他人ニ引渡シテ其懲戒ヲ受クルヲ待ツノ理アラシヤ
 草案第五條第六項ニ公訴ノ期滿免除トアレトモ刑ノ期滿免除モ亦然
 リ是レハ第一項ノ欠點ヨリ來リタル欠點ナリ
 草案第七條ニ曰ク
 外國人日本管内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ日本ノ法律ニ依テ處斷ス
 刑法ハ土地ニ關スル者ナレハ外國人ト雖モ日本管内ニ於テ罪ヲ犯シ
 タルトギハ日本ノ法律ヲ以テ處斷スヘキハ亦當然ノ理ナリ然リ而シ
 テ之レチ英國ノ法律ニ照ラストギハ尙不足ノ感ナキ能ハス英國刑法
 ニ據レハ唯其管内ノミナラス海岸三里以外ノ遠洋ニ於テ罪ヲ犯シタ
 ル者并ニ潮ノ盈退スル外國ノ港灣ニ於ル場合ハ共同ノ管轄トス一例
 ナ示セハ假リニ日本ニ治外法權ナキモノト見做シ譬ヘハ英船其國人

草案第八條

ヲ乗セテ横濱ニ來リ碇泊中英人相互ニ鬭爭ヲナシ我カ警察官之ヲ認
ルトキハ日本ノ法律ニ依リテ之ヲ處斷スヘキナリ何トナレハ設令英
船ニ在リテ英人ノ鬭爭シタルニモセヨ其碇泊ノ場所ハ則チ日本ノ港
灣ニシテ其所爲ハ則チ日本ノ公安ヲ破リタル者ナレハナリ若シ刑法
ヲシテ人ニ關スル者ノミトナサハ英人相互ノ鬭爭ハ日本人ニ關係ナ
シト雖モ尙モ刑法ハ土地ニ關スル者ナリトセハ其社會ニ對スル犯罪
ハ外國人ナリトモ宜シク日本ノ法律ニ於テ罰スヘキナリ勿論其犯罪
ニシテ外國ノ法律ヲ以テ罰スヘキ者ナルトキハ英國ノ法律ニ依リテ
モ亦之ヲ處斷スルコトヲ得ヘシ是レ共同ノ管轄ナレハナリ

草案第八條ニ曰ク
外國人外國ニ在テ日本國ニ對シ第四條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル
者外國ニ於テ確定ノ裁判ヲ受ケスシテ日本國ニ來ル時ハ日本ノ法

律ニ依テ處斷ス
 第四條ニ記載シタル罪トハ日本國ノ安寧ヲ破リ又ハ國璽ヲ偽造スル
 等ヲ云フ者ニシテ第一確定裁判ナキト第二日本國ニ來ルトニ依リ此
 條ノ罪ヲ組成ス要言スレハ外國人カ外國ニ於テ罪ヲ犯シ日本國ニ來
 ルトキハ日本國ノ法律ヲ以テ處斷スト云フ隨分奇怪ナル條ニシテ議
 論ノ因テ出ル多シトス抑刑法ハ土地ニ關スル者トセンカ將タ人ニ關
 スル者トセンカ土地ニ關スル者トセハ其犯罪ノ場所ハ外國ナリ何ソ
 日本國ニ關係アラシヤ人ニ關スル者トセンカ其犯罪人ハ外國人ナリ
 又何ソソ日本人ニ關係アラシヤサレハ英國ノ學者ニ云ハシムルキハ
 斷然罰ス可エサル者トナスハ必定ナリ何トナレハ土地ニ關係ナシ又
 人ニ管轄ナクレハ之ヲ罰セント欲スルモ罰スヘキ根據ナシ加之ス外
 國人ハ日本ノ法律ヲ知ルノ義務ナシ既ニ之レヲ知ルノ義務ナクレハ

又何ソ敢テ日本國ノ法律ノ爲メニ束縛セラレシヤ然ルヲ日本國ニ
來リタルヲ理由トシテ捕ヘテ之ヲ罰スルハ是レ曾テ日本ノ法律ヲ知
ルノ義務ナキ者ニ責ムルニ其曾テ之ヲ知ラサルノ罪ヲ以テスルモノ
ニシテ法律ハ既往ニ及ホサル原則ニ乖戾スルノミナラス此ノ如ク
ナルトキハ結局日本國ノ法律ヲシテ世界萬國ニ發布セサル可ラサル
ニ至ラン是レ豈言フ可クシテ行フ可キ者ナランヤ故ニ此條ハ所謂論
據ナキノ法律ニシテ余ノ奇怪ナリトナス所以ナリ乍併佛蘭西學者ノ
ナルトラン氏其人ノ如キモ猶此論ヲナス者ニシテ氏ハ此條ニ於テ其他
ノ重罪例ヘハ日本人カ外國ニ於テ日本人ヲ殺シタルカ如キ罪ヲモ包
括セリ若シ此等ノ論者ノ說ノ如ク日本社會外ニ於ル騷動ヲモ日本ノ
法律ヲ以テ罰スルトキハ遂ニハ日本社會ニ於ケル外國人相互ノ騷動
ヲ目撃スルモ日本ノ警察官ハ傍觀シテ拱手セサル可ラサルニ至ラン

此條ヲ辨護スル者アリテ曰ク刑法ハ土地ニ關スル者ナリ此ノ犯罪ハ日本國ニ對スルモノナリ故ニ日本ノ管轄内ニ來ルヲ以テ之ヲ罰ス則チ外國人ハ日本ノ法律ヲ知ルノ義務ナケレ共日本ニ來ルノ行爲ヨリシテ其義務ヲ生スルナリト然レトモ若シ此論據ニ由ルトキハ第四條(草案)ト等シク日本人カ外國ニ於テ日本ノ安寧ヲ害シタルトキハ日本ニ來ラスト雖モ缺席裁判ヲナシ空法ヲ適用スルカ如ク外國人ト雖モ缺席裁判ヲ爲サ、ルヲ得ス如何トナレハ此ノ犯罪ハ日本國ノ安寧ヲ破ルモノナレハ更ニ内外人ヲ區別ス可ラス今英人カ英國ニ於テ日本ノ貨幣ヲ偽造スルモノアランニ遠ク我日本ノ裁判所ニ於テ缺席裁判ヲ爲サンカ世界ノ物笑ヒナランノミ

以上第四條ヨリ第八條ニ至ルマテハ草案ニ於テ之ヲ決シタリ其中ニハ前段ニ述タルカ如ク隨分奇怪ナル條モアリ既ニ決定シタルコトナ

レトモ法律管轄ノ事ハ隨分込ミ入タルコトニシテ例ヘハ河ヲ隔テ、
相隣スル國アリトセシカ此場合ニ於テ甲國ヨリ乙國ノ人ヲ炮撃シタ
ルトキハ其人ハ甲乙何レノ國ノ法律ヲ以テ之ヲ處斷スヘキヤ等ノ疑
問起ルナラン隨分面倒ナルコト多シ此等ノ事ハ他日國際私法ニ於テ
諸君カ詳細ノ講義ヲ聞カル、コトアルヘシ

却說以上ハ草案ノ條文ニ由リ場所、人、及ヒ事ニ關スル刑法ノ適用トシ
テ論シタレトモ今刑法ハ人ニ關スルモノニアラス專ラ土地及事ニ關
スルモノトシテ之ヲ論スルコトヲ得ヘシ即チ苟モ日本管内ニ入ルモ
ノハ内外人ヲ問ハス又日本ノ船舶ハ一小島ニ浮ヒ行ク者ナレハ日本
國ニテ之ヲ管轄ス可キモノトシ草案第四條ノ缺席裁判ヲ爲スカ如キ
空法ヲ止メ日本人トアルチ内外人ト改メ日本國ニ來ルトキハ云々ノ
但書ヲ加ヘタルトキハ全ク土地ニ關スル管轄トナル可シ尤モ第八條

事ニ關スル刑法ノ適用

第四條

外國人外國ニテ日本ノ安寧ヲ害スル罪ヲ犯シ日本國ニ入りタルトキハ日本ノ法律ヲ以テ之ヲ罰スルハ不當ノ如クナレトモ國ニ入ルニハ先ツ其國禁ヲ問フテ然ル後入ル可シ其之ヲ問ハサル者ハ罪ナリ故ニ苟モ日本國ニ在ルモノハ盡ク之ヲ罰ス可キナリ

事ニ關スル刑法ノ適用

是ヨリ事ニ關スル刑法ノ適用ヲ述ヘン即チ刑法第四條第五條ニ記載スルモノ是ナリ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

此條ハ軍事ニ關スル適用ヲ示セルナリ所謂者トハ人ヲ指スニアラスシテ事ヲ指スモノナリ則刑法ハ前ニ述タルカ如ク土地ニ關スル者ナレハ外國人スラ嘗テ之ヲ罰スルニアラスヤ然ルニ况ンヤ日本國ノ人民

第五條

タル者ヲヤ故ニ此條ノ主意タルヤ唯陸海軍ノ法律ニ於テ正條アル者ハ其正條ニヨリテ處斷シ此法律ヲ適用ス可ラスト云フニ在リ必ス軍人ニ關スル者ト誤解スルコト勿レ但シ軍事犯ト雖其管轄ニ至リテハ陸海軍刑法及ヒ布告ニ由リ通常裁判所ニ於テ之ヲ罰スルコトアリ

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名

アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

此條ハ別ニ説明ヲ要セス則チ他ノ法律規則例ハ新聞條例出版條例ノ類ノ如ク特別ノ規則ニ於テ刑名ヲ定メ此刑法ニ正條ナキモノハ各其規則ニヨリテ處斷スト云フニ止マレリ

第二章 刑例

刑例

第一節 刑名

第六條ヨリ第十條マテニ刑名ノ事ヲ掲ケタリ此刑ヲ分ツテ色々トナシタルカ一体此刑ハ如何ニ分ツチ宜シトスルヤ即チ學問上如何ニ分ル、モノナリヤト云フニ付學者ノ議論多シト雖モ理論上大概之ヲ四ツニ分チ一、生命刑(死刑)二、自由刑(徒刑禁獄)ノ如シ三、榮譽刑(剝奪公權停止公權)ノ如シ四、財産刑(罰金科料)トス凡ソ學問上ノ區別ハ如此ナレトモ我カ立法官ハ大變ノ刑名ヲ置キタリ此刑名ヲ多クシタルハ佛蘭西ニ倣フタルモノナランカ今其刑名ヲ見ルニ其區別立タサルモノアルカ如シ加之ニ刑名ヲ多クスルハ經濟上ニモ大ニ忌ム可キコトニシテ刑名ヲ多クスルハ學者ノ批難ヲ免レサル所ナリ重懲役ト云ヒ輕懲役ト云ヒ重禁錮ト云ヒ輕禁錮ト云フカ如ク種々雜多ニ刑名ヲ分ツハ佛蘭西ノ如キ舊キ成典ニコソ見ユレ今日新タニ成ル所ノ者ニ斯カル

第十一條

刑名ノ多キハ恐ラシクハ其比類ナカランカト存スルナリ第一徒刑ノ如キモ佛蘭西ノ如キ國ニ在リテハ尤モノ刑ナレトモ我日本ノ如キハ原來島國ニシテ日本人ハ皆島流シノ身分ナリ其島流シノ身ヲ以テ又島流シトナストハ實ニ奇怪ノコトナリ此等ハ佛蘭西ノ刑法ガ日本ニ似タルニ非スシテ我日本ノ刑法カ偶然佛蘭西ニ似タルナラン我刑法ニ於テ重罪九、輕罪三、違警罪二、凡テ十四之ヲ主刑ト定メ別ニ附加刑六アリテ通計スレハ二十トナル實ニ大變ノ刑名ナリト言フヘキナリサテ此等ノ刑ノ如何ハ第二節以下ニ記載セルヲ以テ各其條下ニ於テ講述ス可シ

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目

六別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

トハ別ニ監獄則アリテ此等ノ事ヲ定メタルヲ云フナリ

主刑處分

第一節 主刑處分

主刑處分トハ如何ナルコトヲ謂フヤ或ハ主刑ノ構成ヲ説キタルモノナリト云フ者アレトモ余ハ主刑ハ如何ニスルト云フコトヲ説キタル者ノミト思フナリ

第十二條

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

若シ主刑處分ハ主刑ノ構成ノ事ヲ説キタルモノト見ルトキハ此處ニ於テ死刑ハ生命ヲ奪フト書ク可キナリ然ラサル者ハ構成ノ事ヲ書キタルニアラサル證ナリ又舊法ニ於テハ死刑ニ絞斬ノ二種アリタレトモ此刑法ハ絞罪ト改メ設ケ其生命ヲ奪フモ身首處ヲ殊ニスルコトナカラシメタリ

死刑ハ獄内ニ於テ之ヲ行ヒ公ケニセスト云フニ付或學者ハ死刑ハ人

民ヲ警戒スル主義ナレハ公ケニ之ヲ行ヒ秘密ニス可ラスト云フ者アレトモ夫レニテハ餘リ殘酷ニ過クルニ由リ内々獄内ニ之ヲ行フ者ナラン此死刑ヲ公ニスルコトハ宜シカラサルカハ知ラサレトモ或國ニ於テハ刑法警戒ノ主義ニ由リ死刑ヲ執行スルトキハ鐘ヲ撞テ人民ニ之ヲ報セシム亦一奇法ト云フヘシ

絞首ノ方法等ハ監獄則ニアレハ茲ニ贊セス

第十三條

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非レハ之ヲ行

フコトヲ得ス

死刑ハ最モ大事ナル刑ナレハ容易ニ之ヲ執行ス可キモノニアラス故ニ裁判申渡アリト雖モ必ス檢事ヨリ司法卿ニ上申シテ其命令ヲ得ルニアラサレハ之ヲ執行セサルヲ云フモノニシテ尙ホ特赦ヲ受クルコトアルヲモ測ラレサルヲ以テナリ

刑法 (第十三條、第十四條、第十五條)

第十四條

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁

ス

此レハ祝日ナレハ死刑ヲ行ハスト云フコトヲ定メタルナリ委シキコ

トハ附則ニ就テ見ルヘシ

第十五條

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受タル婦女懐胎ナル時ハ其

執行ヲ止メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハ

ス

如何ナル故ニ斯クハ爲シタルカト云フ理由ハ諸君容易ニ之ヲ解セラ

ル可シト雖其解セラル、處大ニ齟齬スル所アルヲ知ル何ソヤ諸君必

ス之ニ答テ云ハントス刑ハ一人ニ止マルナリ故ニ子ニ及ホサスト之

レ佛蘭西法ノ原則ナリ然レトモ我カ此刑法ハ刑若シ二人ニ及ハサル

者トスルトキハ分娩後直チニ之ヲ執行ス可シ何ソ一百日ノ猶豫ヲ待

ツコ及ハンヤ論者或ハ云ハン凡一百日ノ猶豫ヲ與フルモノハ其子ヲ育ツルニ必要トスレハナリト然ラハ何故其子ノ死シタルトキハ直チニ之ヲ執行セサルヤ然ルチ之ヲ許サスシテ尙且百日ノ猶豫ヲ與フルモノハ之ヲ要スルコト母子共ニ哀ハレム者ト云ハサル可ラス決シテ佛蘭西ノ原則ヲ的儀ムルコト能ハサルナリ

母子共ニ哀レムト云フト雖此理由モ尙面白カラス何トナレハ生子百日ヲ經過シ母ノ愛情益加ハルトキニ於テ之ヲ殺スハ甚殘酷ニシテ寧ロ産後直チニ之ヲ殺スノ優レルニ如カサルカ如シ

第十六條

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス

是レハ餘リ世話焼キ過キタルモノナリ斯ク云フトキハ其遺骸ヲ下付スルト下附セサル權ハ官吏ニ在ルモノカノ如ク見ユレ共決シテ然ラ

サル者ナリ

但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

ト此等ハ宜シク警察規則ニ於テ定ムレハ澤山ナリト思ヘリ必竟國ノ治安上ヨリ出テタルモノニシテ茲ニ之ヲ規定スルハ不都合ニシテ且ツ却テ警察規則ニ書キタル方效能アリテ此條別ニ制裁トテモナク要スルニ犯スモノアレハ警察官ハ之ヲ止ムルノミ

以上ハ死刑ノ事ニ關スル講述ナシタルカ或學者ハ死刑廢ス可シト主張スルモノアリ此死刑廢スヘシトスルハ理論上ヨリ來ルモノニテ又廢ス可ラストスルハ實際上ヨリ來リタルモノナリ兩ナカラ理アリテ兎テモ予輩ノ喙ヲ容ルヘキニアラサル處ナリ且又日本ニテハ現ニ死刑廢ス可ラストシテ置カレタル者ナレハ別段論スルニモ及ホサレトモ死刑廢ス可シト云フ論モ一應之ヲ聞カサル可カラサルナリ此ハ理

論上宗教上ノ議論アリテ其論點トスル所ハ曰ク人ヲ殺シタルモノハ
刑法上ノ罪アリトシテ捕ヘテ之ヲ殘酷ナル死刑ニ處スルハ何ソヤ法
律ハ人ヲ殺ス可カラスト云ヒテ自カラ人ヲ殺スニアラスヤ又曰ク人
ハ怨或ハ怒リニ乘シテ人ヲ殺ス反之法律ハ而カモ平氣ヲ以テ緩々ト
シテ人ヲ殺ス又曰ク一人ヲ殺シタルカ爲メ又他ノ一人ヲ殺スハ何ソ
ヤ凡ソ人ノ社會ヲナスヤ此ノ如キノ理アラソヤ社會ニ害アルモノナ
レハ宜シク之ヲ入牢セシム可シ然ルヲ法律アルカ爲メ一人ヲ殺スト
キハ又他ノ一人ヲ殺シ其結果ハ終ニ社會ニ二人ヲ亡失スルニ至ル
又曰ク死刑一タヒ行ヘハ再ヒ生カス可ラサルニ至ル若シ誤テ人ヲ殺
ストキハ如何スヘキヤト云フモノアレトモ此論ハ未タ以テ死刑廢ス
可シトスル論據トナスニ足ラス此ノ如キハ唯死刑ノミニ限ラサルナ
リ然レトモ一人ヲ殺シタルカ爲メ他ノ一人ヲ殺シ遂ニ社會ニ二人ヲ

徒刑

亡失セシム可ラストスルカ如キハ最モ批難シ難キ論點ナリトス

徒刑トハ大寶令等ヨリ引出シ論シ來ルトキハ長々シキ講譯アレ共唯
 一言以テ云ヘハ島流シナリ徒刑ニハ有期無期ノ別アリテ孰レモ島地
 ニ派遣シテ苦役ニ服セシムル者ナリ(只今ニテハ北海道ニ派遣スル者
 トセリ)此島地ニ派遣スルヲ以テ原則トスレ共其徒刑トナル可キ者女
 ナルトキハ別段之レハ丁寧ニ取扱ヒ内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服セ
 シム(第十八條)掇何故女ハ島地ニ遣ラサルヤ女ハ体ノ柔弱ナルヲ以テ
 理由トナスカ知ラサレトモ然ラハ男コテモ体ノ柔弱ナルモノ多シ然
 レハ更ニ其理ヲ解セサルナリ
 夫レ島地ニ派遣スルノ目的トスル處ハ殖民セントスルニ在リ故ニ其
 島タルヤ寒地ナラサレハ熱地ニシテ住民少ナク開墾ノ業ニ就カサル所

第十九條

ナリ然ルニ女無ナケレハ殖民ノ目的ニ背反スルニアラスヤ經濟學者モ女少ナケレハ殖民ノ用ヲナサス黴毒等多流シテ却テ宜シカラスト云フモノアリ

且又諸君問ハル、ナラン徒刑トハ女ニ對シテハ懲役ナリ何故然ルヤト是ニ至ツテハ余モ亦刑法ヲ辨護スルコト能ハス唯其違フ所ハ年限ノ長短ノ一點ニアリテ他ノ性質ハ異ナルコトナシ又徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免レ其體力相當ノ定役ニ服ス

(第十九條)ハ是レ亦學者ノ批難ヲ免レサルナリ此ノ條ニ因リテ考フルトキハ徒刑ハ壯年ナレハ體力不相當ノ役ニ服セシムルヤノ疑起ルト雖モ此レ素ヨリ出來可ラサルコトニテ壯年ニテモ体力相當ノ役ニアラサレハ出來ヘキ者ニアラス是レ或獨逸ノ學者カ日本ノ刑法ヲ批難

シタル所ナリ故ニ定役ハ何時ニテモ体力相當ナリ体力不相當ナレハ
 忽チ死ヲ致ス可シ然ラハ徒刑ハ亦一ノ死刑ナリ
 或人曰ク世人ハ皆体力相當ノ役ヲナスモノナリ若シ徒刑ヲシテ体力
 相當ノ役ニ服スル者トセハ世人皆是レ徒刑ナリト云ハサル可ラス故
 ニ体力不相當ノ役ニ服セシメサレハ刑トナラスト云フモノアリ大ニ
 間違ヒタル論ナリ凡ソ刑トハ如此モノニアラスシテ良民ハ却テ徒刑
 ヨリ苦シキ役ヲ採ルカモ知ラス然レトモ良民ハ其勞力ノ結果ヲ自カ
 ラ收ムルコトヲ得レトモ徒刑ハ自カラ收ムルコト能ハサルノ大差異
 アリ此事ハ後ニ至リテ説ク所アラシカ
 以上述ヘタルカ如クナルニ由テ刑法ハ壯年者ニハ体力ノ盡スヘキ限
 リハ之ヲ盡サシメ六十歳以上ノ者ハ其年齢ニ相當スル役ニ服セシム
 ル者ト解釋ヲ下サ、ル可ラス然レトモ隨分六十歳ニテモ猶矍鑠トシ

流刑

第二十條

テ壯年ニ異ナラサルモノアリ

流刑

(第二十條)流刑ハ無期有期ヲ分ツス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス
刑ノ性質ハ徒刑ニ異ナラサレトモ唯其異ナル所ハ定役ノ有無ト外ニ
適用上一方ハ國事犯ニ用ヒ一方ハ常事犯ニ用ユルノ點ニ在ルノミ
サテ此流刑ト死刑トハ殆ント十萬億度ノ差アリト云フヘシ命アレハ
物種ニテ無期流刑ニ五年ヲ經過スレハ獄ヲ出テ島中ニ住ムコトヲ得

第二十一條

(第二十一條)有期モ同シク三年ニシテ此權ヲ得ルコトアリ然レトモ此
權タルヤ自カラ求メテ得ヘキニアラス典獄ノ申立ニ由リ行狀ノ善良
ナルモノヲ獎勵スル爲メニ宥サル、特典ナリ

懲役

懲役

第二十二條

懲役ハ諸君ノ聞キ慣レタル處ニシテ内地ノ懲役場ニ入レテ定役ニ服

禁錮

スル者ナリ(第二十二條輕重ノ差ハ期限ノ長短ニヨリテ區別セリ)

禁錮ト云フ名アレトモ實際重禁錮ハ懲役ト變リナク唯年限ノ異ナル
ノミ此禁錮ニ付キ輕重ノ區別アルハ其年限ニ變リナキモ定役ノ有無
ニ由リテ之ヲ分テリ

(第二十五條定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄
舍ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス云々)

此條批難ス可キ點ニシテ前ニ述タル如ク良民ノ世渡リニ於テ苦役ノ
様同シコトニテ却テ罪囚ヨリ苦シキコトアレトモ唯其勞金ノ手ニ入
ルト否ラサルトニヨリテ異ナリト言ヒシカ爰ニ此條アリテ其性質ヲ
害シタルモノト云フヘシ左レトモ我刑法ノ此條ヲ設ケタルハ囚徒ノ
放免ノ後ニ於テ其生計ヲ得ルニ便ナラシメタルモノナラム

右ニ論述シタル所ハ則チ自由刑ナリ
 監獄ニテ自由刑ヲ執行スルニ付如何ナル方法ヲ用ヰテ刑ノ目的ヲ達
 スルヤ改良主義ヲ取ルト懲戒主義ヲ取ルトニ依リ自ラ其方法ヲ異ニ
 ス可シ改良主義ニ在リテハ囚徒カ後日世ニ出テ勞働セル様ニ爲シ懶
 惰ナル者ノ罪ヲ犯シタルトキハ之レヲシテ耕作ノ役ニ就カシメ盜ヲ
 爲シタル者ニハ食ヲ得ルノ方ヲ知ラシムルニ在リ學者ノ說ハ概チ改
 良主義ナレトモ英吉利ニテハ實際然ラス通例ハ鉄ノ車ヲ幾回トナク
 回轉セシムルヲ以テ囚徒ノ業トナスベンサムノ如キハ其實利主義ヲ
 以テ大ニ英吉利ノ監獄制度ヲ駁撃シタリシカ英國立法官ハ更ニ頓着
 ナク再度獄則チ改革シタレトモ決シテ轉車ノ法ヲ改メサルナリ
 編者曰ク左ノ一篇ハ江木先生カ地方判事試験ニ出立サル、ノ前ニ
 臨ミ演說セラレタルモノニ係ル

刑法 (監獄主義論)

監獄主義ヲ論ス

凡ソ監獄ノ主義ニ改良ト懲戒トノ二者アルコトハ既ニ講述シタル所ナレトモ今一層進テ此ニ主義ノ利害得失ヲ詳論ス可シ抑モ懲戒主義トハ精神上及勞役上囚徒執ル所ノ業務其身ニ苦痛ヲ覺エ倦厭ノ情ニ堪ヘス獨リ現ニ在獄ノ囚徒ノミナラス他ノ良民ヲシテ囚獄ノ恐ルヘキヲ感セシムルモノヲ云ヒ改良主義トハ監獄ノ制規專ラ宗教教育ニ因リテ囚徒ノ良心ヲ涵養シ其服役事業モ亦專ラ有益ニシテ他日囚徒カ生計上ノ便ヲ計ルモノヲ云フ然リ而シテ監獄ノ直接ニ據テ以テ本末主客トスヘキモノハ二者何レニ在ルヘキカ則チ改良ノ方法ヲ主ト爲シ本ト爲シ懲戒ノ方法ヲ客ト爲シ末ト爲スヘキカ將タ亦之ニ反スヘキカ是レ大ニ議論ノ生スル所ナリトス然レトモ予ノ思考スル所ニ依レハ監獄ノ主義ハ到底懲戒ヲ本トセサルヘカラス今

改良主義ヲ實行シ得ヘシトス誤想スルノ源由ハ左ノ數者ニ歸スルモ
ノ、如シ
第一 古昔監獄ノ學未タ開ケサルニ當リテヤ監獄ノ制度凡百ノ惡弊
ヲ生シ囚徒ヲ驅使スル非常ニ殘虐ナルヨリ監獄ハ却テ惡人ヲ養成ス
ルノ教場タリシカ現時警察ノ方法ト共ニ監獄ノ制度モ進歩シ學者囚
徒ヲ改良スルノ必要ヲ論シタルヨリ其說新奇ニシテ世人ノ贊成ヲ博
スルヤ之ヲ信スルノ餘遂ニ末葉タル改良ノ方法ヲ以テ其本幹タル懲
戒ニ譲リ前日ノ反動ヲ生シ却テ改良主義ヲ以テ監獄制度ノ本性トス
ルニ至レリ然リ而シテ歐米諸國ニ於テ改良主義ヲ取ル所アリト雖モ
未タ甚タシキ弊害アルヲ見サルハ他ニ監獄制度ノ整頓完美ナルニ由
ルモノニシテ主義其者ノ善ナルニアラサルナリ
第二 改良主義ニ在リテ監獄ノ目的ト方法即チ主義トヲ混同セリ監

獄ノ目的ハ固ヨリ天下ノ良民ヲ得ルニアレトモ此目的ヲ以テ改良ノ方法ト誤認シ本主タル懲戒ヲ施シ而シテ後生スル自然ノ結果ヲ見テ直チニ良民ヲ製造セント企テ手細工ヲ用ヒントスルモノナリ監獄ノ目的ハ良民ヲ得ルニ在リトスルハ可ナリ然レトモ改良ヲ以テ方法ト爲スハ不可ナリ

第三 改良主義ハ宗教ノ旨意ニ基ク蓋シ宗教上ニ於テハ凡ソ人類ハ如何ナル兇惡ナルモノト雖モ之ヲ教導スレハ幾分カ善道ニ歸スルナリト然レトモ實際之ヲ適用スルモ其效驗ヲ見サルヘシ何トナレハ囚徒タルモノハ幼時ヨリ多少家庭教育ヲ受ケタルモ尙ホ良民トナルヲ得サリシモノカ何ヲ以テ不充分ナル監獄内ノ教導ヲ以テ遽ニ善人ニ化スルモノナランヤ嗚呼囚徒ヲ教育セントスルハ事己ニ晚シ論者何爲ゾ囚徒トナラサル前ニ教育セサルヤ故ニ改良主義ハ改良モ全カラズ

懲戒モ充分ナラス遂ニ俗ニ云フ虻モ取ラス蜂モ取ラサル如キ監獄制度ヲ見ルニ至ラン懲戒コソ通常改良方法ノ及ハサル最後ノ最良教育ト心得テ可ナリ

第四 改良主義ヲ實行セント欲セハ莫大ノ經費ヲ抛タサルヘカラス彼ノ白耳義ウエーキヒールト諸邦ノ如ク囚徒一人ヲ容ルヘキ獄舎ヲ建築スルニ六百圓ヲ要シペンセルハニヤ獄ノ如ク一室千五百圓ヲ要スル一萬有餘ノ獄室ヲ備ヘ或ハ一ケ年五百人ノ囚徒ニ八百萬圓餘ノ雜費ヲ要スルペンタビル獄ノ如ク總テ離隔法或ハ沈黙法等ヲ設ク

ル獄制ニ依ラサルヘカラス則チ囚徒一室ニ獨坐閑居シ萬感交々集タル機ニ乘シ懇々説諭ヲ加ヘレハコソ改良主義ノ效驗モ行ハルヘシ若シ混同制度ニテ喧雜極リ無キニ際シ之ヲ誘導感化シテ良結果ヲ得ントスルモ頗ル難事ト云ハサルヘカラス時ニ或ハ囚徒ノ誘導ニ感化ス

ルコトアルモ是レ稀有ノ一美談ノミ未タ以テ大體ヲ論スルニ足ラサルナリ
 前ニ論シタルハ精神上ニテ改良ノ議論ナレトモ服役事業上ニ於テスルモ亦同シ凡ソ改良主義ニ於テ授クル事業ハ眼前ニ著シキ結果アル勞役ヲ以テ正業ニ就クコトヲ誘導スル方法ナレトモコレ囚徒放免後ノ良處置ヲ得タル國ニアラサレハ行ハレサルナリ西洋諸國ニテハ私立ノ放免囚徒保護會社ナルモノヲ設ケ放免囚徒ノ性質及、獄内ニ於テ受ケタル事業ノ種類ニ應シテ資金器械等ヲ貸付シ或ハ殖民地ニ移住セシムルト云フ未タ斯、ル制度ノ設ケ無キ諸邦ニ在リテハ仮令能ク囚徒ヲ改良シ得ルモ再犯ヲ防ク方法ナキナ奈何セン
 第五 西洋諸國ニ於テ改良主義ヲ執リ獄制ノ寛大ナル所以ノモノハ陪審ノ制大ニ與リテ力アルモノナリ蓋シ陪審官ハ概テ法律ニ通セス

慈善心ニ富ムモノナレハ囚徒ノ服役スル相當ノ勞役モ之ヲ憐ムノ情
深ク若シ獄制嚴格ナルコトアラハ陪審官ハ多數ノ犯者ニ無罪ノ審判
ヲ言渡スノ恐アルヲ以テ政畧上止ムヲ得ス多額ノ經費ヲ省ミテ改良
主義ヲ取ルモノ、如シ故ニ西洋監獄ノ定規及ヒ囚徒ノ服役方法ハ外
形上甚寛大ノ觀アレトモ其實無上ノ苦痛ヲ覺ユルモノアリ

第六 西洋諸國就英國ノ如キハ人民貧富ノ懸隔甚シキヲ以テ貧民
ハ飢餓ニ迫リ罪ヲ犯スモノ多キヨリ貧民救育事務ト囚獄事務トヲ相
對シ從ヒテ改良主義ヲ以テ監獄制度ニ實行セント欲スルモノ少カラ
ス然レトモ東洋ノ如ク貧富概テ平均ヲ得テ貧民生計ノ度モ亦未ダ困
難ノ極度ニ達セサル邦國ニアリテハ改良主義ノ監獄制度ハ蓋シ急務
ニアラサルヘシ然レトモ是等ノ點ハ實際ノ統計ニ照シテ犯者ノ過半
果シテ犯罪セサレハ飢渴スルヲ以テ止ムヲ得ス惡事ヲ爲スノ情況ア

ルヤ否ヲ詳査セサルヘカラサルナリ
 左レハ改良主義ノ實行スヘカラサルコトハ畧ホ明ラカナラン
 懲戒主義ニ於テモ敢テ改良方法ノ更ニ取ルヘキ所ナシトスルニアラ
 サレトモ只懲戒ヲ主トシテ改良ヲ客トスヘシトスルニ在リ則チ囚徒
 ハ嘗テ良民タリ嘗テ社會ニアリタレトモ遂ニ良民タルコト能ハサル
 者ト概定シ監獄ノ目的ヲ達スル最終手段トシテ懲戒方法ヲ用ユルヲ
 以テ其本則トスルモノナリ今懲戒主義ノ思想ヲ分拆スレハ内外二種
 ノ元素ヲ含有スルモノタルヲ知ルヘシ
 内部元素 罪惡ノ思想ト懲戒ノ思想トハ相伴ヒ相接シ罪惡アレハ懲
 罰必ス之ニ從フトスル人間自然ノ情ヲ基トシ懲罰ヲシテ眞ニ懲罰ノ
 苦痛アラシメ囚徒ヲシテ其罪惡ノ結果ヲ感セシムルモノナリ
 但之レニ附加スルニ往々改良ノ方法ヲ以テスレトモ先ツ精神上ニ苦

痛、情、ヲ、起、サ、シ、メ、而、後、後、悔、悟、懺、悔、ノ、心、ヲ、起、サ、シ、メ、ン、ト、ス、ル、ニ、外、ナ、ラ
ス、換、言、ス、レ、ハ、囚、徒、服、役、ノ、事、業、ハ、苦、痛、ヲ、主、ト、シ、本、ト、シ、之、ニ、附、加、ス、ル、改
良、ハ、此、ノ、苦、痛、ニ、ヨ、リ、テ、生、ス、ル、悔、悟、ノ、心、ヲ、促、ス、ニ、過、キ、ス、シ、テ、決、シ、テ、直
接、ノ、手、段、ヲ、以、テ、囚、徒、ヲ、誘、導、セ、ン、ト、ス、ル、モ、ノ、ニ、ア、ラ、ス、論、者、或、ハ、云、ハ、ン
歐、州、諸、國、ハ、監、獄、ノ、制、度、寬、大、ナ、ル、ニ、尙、ホ、能、ク、效、績、ノ、甚、著、大、ナ、ル、モ、ノ、ア
ル、ニ、ア、ラ、ス、ヤ、ト、然、レ、モ、此、效、績、タ、ル、ヤ、果、シ、テ、改、良、主、義、ヲ、實、行、ス、ル、ヨ、リ
シ、テ、得、來、ル、モ、ノ、ナ、ル、カ、將、タ、能、ク、苦、痛、ノ、最、モ、甚、シ、キ、勞、役、ヲ、撰、ヒ、得、テ、懲
戒、ノ、本、旨、ヲ、達、ス、ル、ヨ、リ、得、來、ル、モ、ノ、ナ、ル、ヤ、之、ヲ、疑、ハ、サ、ル、ヲ、得、ス、殊、ニ、歐
米、ニ、テ、ハ、其、苦、痛、ノ、甚、シ、キ、邈、ニ、本、邦、ノ、懲、役、ノ、比、ニ、ア、ラ、サ、ル、勞、役、ア、リ、况
ン、ヤ、改、良、主、義、ヲ、本、ト、ス、ト、揚、言、ス、レ、モ、獄、舍、ノ、制、規、甚、タ、苦、痛、ヲ、覺、ユ、ル、モ
ノ、ア、ル、ニ、於、テ、チ、ヤ、

外部ノ元素 良民ヲシテ囚獄ノ嫌忌スヘキ小天地タルコトヲ知ラシ

メテ以テ之ヲ恐嚇シ其犯罪ヲ豫防ス
 論者或ハ批難セシテ監獄ヲ以テ良民ヲ恐嚇シ良民ノ犯罪ヲ豫防セント
 スルカ如キハ囚徒ヲ以テ一般良民ノ犯罪ヲ戒ムル器械トナシ人生平
 等ノ公理ヲ紊ルモノニアラスヤト然レトモ懲戒主義ハ答テ云ハシ囚徒
 ヲ以テ器械トスルハ論者ノ言ノ如ク然リ然レトモ人生平等ノ公理ヲ
 紊ルモノニアラス原來人生平等ハ人民相互間ニ於テスヘキモノニテ
 人民ト國家ト相對スルトキハ國家ハ固ヨリ一人一個ニ勝ツハ組織上
 ノ原理ナリトス而シテ之ヲ詳論スルハ一朝一夕ノ能ク悉スヘキ所ニ
 アラサレハ之ヲ畧シ左ニ懲戒主義ニアラサレハ決シテ其明解ヲ得ヘ
 カラサル一二ヲ説示スヘシ(一) 良民ヲ恐嚇スルノ意ナクシテ囚徒ノ
 性質兇惡コシテ到底改良ノ見込ナキモノハ刑ヲ執行スルニ及ハサル
 ニアラスヤ(二)囚徒ノ性質順良ニシテ前非ヲ悔悟シ確タル改良ノ目

放免後ノ
囚徒ヲ救
濟スル制
度米國ノ
制

的アル囚徒ハ刑ヲ執行スルニ及ハス直チニ放免スヘシ又犯者ニシテ
死刑ニ該ルモノハ更ニ刑ヲ言渡スニ及ハサルヘシ而シテ尙ホ刑ノ執
行ヲ要スルモノハ犯罪豫防ノ精神ニアラスシテ何ゾヤ
右ニ論スル如ク監獄ノ主義ハ徹頭徹尾懲戒主義ヲ離ル、能ハサルモ
ノナリ然リ而シテ所論甚タ酷薄ニ傾キタリト雖モ予ハ敢テ囚徒ノ一
身ヲ惡ムノ意ニアラサレハ囚徒放免後ニ於テ之ヲ救濟スルハ實ニ希
望スル所ナリ請フ之ヨリ西洋ニ於テ如何ナル制度アリテ放免後ノ囚
徒ヲ救濟スルヤヲ舉示スヘシ

米國 慈惠博仁ノ事業ハ何事ヲ問ハス其起源ヲ米國ニ發スルヲ以テ
通常トス放免ノ囚徒救濟ノ事ニ於テモ亦米國ヲ以テ濫觴トセサルヲ得
ス嘗テヒラデルヒヤノ監獄近傍ニ住シタルリチヤードホ井スタルト
稱スル慈惠者アリ日々放免セラレタル囚徒ノ貧困精神身體共ニ衰ヘ

タル情ヲ親視シ憫情頻リニ發スルノ餘リニ近憐ノ慈善者ト謀リテ遂ニ囚徒ノ救濟ヲ目的トスル一協會ヲ設ケタリ是レ千七百七十六年二月七日ノ事ナリトス此ノ協會々員中ニハ有名ナルベンシヤミン、フラソクリン氏モ亦加ハレリ實ニ此協會ハ囚徒ノ救濟ヲ事トスルモノニ於テハ世界最古ノ一會ナリト云フヘク今日ニ於テハ米國全州中最大協會ノ一トハナレリ其後ニユーハンブシヤイヤ、マツサチユセツト、ロイドアイランド、コンチチカット、ニユーヨルク、マリイランド、ウヰルジニヤ、ケンタッキ、イリノイス、カリホルニヤ等ノ諸州ニモ同一ノ目的ヲ有シタル協會次第ニ振起シ通シテ中央統一ノ組織ヲ爲シ其事業モ亦甚タ活潑ナルノ好評アリ

又右諸協會中ニハ官ノ保護ヲ受クルモノモ少カラス設令ハニユヨール州救濟協會ハ年々五千弗ノ保護金ヲ受ケ且ツ州官吏ニシテ力ヲ

此ノ協會ノ事業ニ盡ス等ノ如シ
英國ニ於テハ千八百六十七年ニ至ルマテ只十三ノ救濟協會アリシノミナリシカ千八百六十二年七月十九日ノ法律ニ由リ國家政府ノ監督ニ服スヘキ協會ハ各州ノ金庫ヨリ救助シタル囚徒毎ニ二(ポント)宛ノ金額ヲ下附スルコトヲ許シタルヨリ實ニ非常ノ結果ヲ生シ千八百七十七年ハ愛蘭、蘇格蘭ヲ除キ英國ノミニ於テモ五十有一ノ救濟協會ハ專ラ七年以上ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ入監セシムル集治監ヨリ放免セラレタルモノヲ救助シ四十有七ノ救濟協會ハ各州ニ屬スル獄舎ヨリ放免セラレタル者ヲ救助スルニ至レリ
爾來放免囚徒救濟ノ事業ハ益々其歩ヲ進メ千八百七十八年ニ至リテハ英國皇太子プリンスオフウェールズ殿下ノ統括ノ下ニ服スル囚徒改良及ヒ救護組合(リフオーメイトリーエントレフユーシユニオン)ナ

ル者起レリ其組織書ノ要旨ヲ畧述セントス
 右囚徒改良及ヒ救護組合ノ設立ニ由リテ從來分離シテ各々個々活動
 ヲ爲シタル諸方ノ協會ヲ統一シ一個ノ常置委員ノ配下ニ歸セシメタ
 リ而シテ中央局ニ於テハ協會全体事業ノ指揮擴充ニ關スル事項ヲ議
 決シ其議決ハ常置委員ノ思料ニ任シテ之ヲ實行ス
 千八百七十八年間協會ノ救濟シタル囚徒ノ數ハ總計一萬〇五百八十
 二人内救濟ヲ拒ミタルモノ三百四十九人惡行ノ爲メニ救濟ヲ解キタ
 ルモノ九百六十四人水夫トナリタルモノ四百二十七人舊職ニ復シタ
 ル者四百九十四人新ニ職業ヲ得タルモノ千五百七十九人朋友知己ニ
 送附セル者千二百七十五人移住セシ者五十四人徵兵ニ應シタルモノ
 十二人ナリ
 右協會ニハ政府ヨリ年々凡三萬六千「マルク」ノ金額ヲ下附シ後來ハ尙

年々八萬マルクノ巨額ヲ下附スルコト、セリ但シ千八百六十二年ノ
 法律ニ由リテ定メタル囚徒一人四十二マルク宛ノ下附金ヲ超過スル
 コトナカルヘシ
 右協會ニハ專務ノ一局アリテ時々雜誌ヲ發行シ又ハ報告ヲ爲ス等ノ
 コトヲ掌トル
 佛國 佛國ニ於テモ十年迄ハ只巴里府ニ孤立セル救濟協會アリシノ
 ミ千八百六十九年ニ至リ英國ヨリ移リタル宣教師ロビン氏巴里府ニ
 於テ「プロテスタント」宗派放免囚徒ノ救濟協會ヲ設立シ翌年ニ至リテ
 カマルク氏救濟協會ソシエテ「ゼテラルバトロナージュ」ヲ設ケ一方
 ニ於テハ巴里府放免囚徒ノ救濟ヲ事トシ一方ニ於テハ佛蘭西全國諸
 協會中央機關トセリ此一協會ハ千八百七十五年ニ於テ公益ヲ目的ト
 スル制度ト見做サレ法律上無形ノ一個人タル資格ヲ得有シ千八百七

十七年ニ於テハ法律ヲ以テ年々二萬「マルク」ノ金額ヲ國庫ヨリ下附セラル、コト、ナリタレトモ又一方ニ於テハ宦衙ノ允許ヲ得タル會規ニ基キテ之ヲ使用シ且ツ年々ノ事務及會計報告ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルニ至レリ

政府ハ各郡ニ一協會ヲ設置センコトヲ欲シ千八百七十九年ニ至ルマテ存立セシ四十有余ノ協會ヲ以テ監獄總協會ノ統括ニ歸セシメント企テタリシガ遂ニ同年間ニ及ヒ救護協會ト巴里府ノ監獄總協會ハ連合シ救護會雜誌ヲ(ルヴユーシユパトリナーシユ)ト稱スル者ヲ發行シ其救助シタル事業ノ報告ヲ公ケニセリ

澳國 ウイエンナ 維也納府ニ一協會アリ囚徒ノ家族ニシテ衣食ノ道ナキモノヲ救助シ放免囚徒ヲシテ業ニ就カシメタル製造場主等ニ賞金ヲ給與スル也會員ハ凡ソ八百三十六人ニシテ皇帝皇后及皇族モ亦之レカ會員

タリ千八百七十九年ニ放免囚徒三百七十六人囚徒ノ家族九十六人(其中幼兒二百三十人)ヲ救助シ又在監囚徒ノ家族二十八人(其ノ中幼兒三十七人)ヲ救助セリ

プラツクニ於テモ千八百三十八年一協會アリ丁字ヲ知ラサル兒童ヲ教育スヘキ救育會ト共同シテ救濟事業ヲ行フ此協會ハ毎年二月十八日午前第十一時ニ或無名氏ヨリ千〇五十[フロリン]ノ贈與金ヲ受ク而シテ此ノ贈與ハ當ニ一ツノ書面ヲ添エダリ今之ヲ拔抄ス

千八百五十三年二月十八日即チ我カ天皇陛下ハ眞神ノ惠ニ由リ基督敎派ノ教育ヲ受ケサル一人ノ謀殺未遂犯ヲ特赦シタルノ紀念トシテ放免囚救濟ノ仁惠ヲ事トスル協會ニ云々

狹少地方ニ就キテハシユワイツノ救濟協會ハ一千有餘ノ會員アリ千八百七十六年中救助ヲ爲シタル放免囚徒凡ソ三十六人救濟費四百〇

九「フランク」ナリ又最モ狭少ナルノイシヤ「イテル」邑ニ於テハ千八百七十一年一ノ獄舎ヲ建設セシ以來一協會ヲ置キ今日ハ會員凡ソ千五百二十人ニシテ七ケ年間四百四十八ノ放免囚徒ヲ救濟セリ即チ平均一年間ニ六十三人トス

獨逸諸邦 獨逸ニ於ケル囚徒救濟制度ハ宣教師テオドルフリード子ル氏ヲ以テ其始祖トス蓋シ氏カ此制度ヲ起サント企テタルハ監獄ノ天女ト稱セラレタル英國ノ婦人エリサベスフレイ氏ノ誘導ニ出テタルモノニシテ千八百二十六年初メテドツセルドルフニ一個ノ監獄協會ヲ設置セリ此ノ協會ハ尙ホ今日ニ存シテ「ライオン」ニツシユヅエル「フアリツ」シエ「監獄協會」ト稱シ甚タ盛大ノ勢アリ又「パウラ」ノ老友等ヲ起シ千八百三十六年ニ教育院ヲ設ケタルモ亦此ノフリード子ル氏ナリ今日ニ至リテハ獨逸國中五十有二ノ教育院ト此ノ中ニ救助セラレ

タル四千余人ノ婦女トハ皆同氏カ其基ヲ立テタルタルノ結果ナリト
謂フヘシ

ハイデンニ於テハ敢テ救濟協會設立ナキニアラサルモ其事業尙ホ狭
少ニシテ茲ニ記スルニ足ルモノナシ
ハエールンニ於テハ一千八百六十一年以來國王ノ統括ニ屬スルムン
シエン放免囚徒救濟協會ヲ興シ今日ニテハ二千〇百人余ノ會員アリ
其事務ハ總會員中ヨリ撰定シ總會ヲ代表スヘキ四十八人ノ委員之ヲ
掌リ毎月曜日ノ夕刻ヨリ常會ヲ開キ救濟ヲ求ムル放免囚徒ノ許容監
督及ヒ其救濟方法等ヲ議決ス又此會議ニ於テハ此會ノ費用ヲ以テ任
命シタル事務員アリ救濟ヲ爲スヘキ放免囚徒ノ行狀及ヒ其必用物等
ヲ報告シ且ツ放免囚徒ノ良否如何ハ警察署員ニテ本會ノ會員タルモ
ノヨリ直チニ其報告ヲ受ク故ニ此會ノ事業ノ極メテ活潑ナルハ殆ン

ト他ニ見ルコト能ハスト云フ此協會ハ又上バエールン區内ノ地方協會十一ヶ所ノ中央會タル資格ヲ有シ其財産ハ獨立シテ之ヲ處分シ唯會計年度ノ終リニ於テ會計表ヲ此等諸協會ニ送付スルコトアルノミ

○此會ノ收入ハ其所有財産利子(家屋ノミニテ凡ソ四萬マルク)皇室ノ恩賜金六百マルク(殆ント九名以上ノ皇族本會々員)タリ邑長ノ寄附二百マルク(當府火災保險會社ノ利益割八百六十マルク)千八千七十九年「ヨハンニスト」ノ協會ノ寄附一千マルク(會員ノ出金凡ソ四千五百五十「マルク」ナリ)今同會第十九回事務報告ヲ見ルニ千八百七十九年ニ於ケル總收入一萬〇五百六十八「マルク」ニシテ支出總額一萬〇〇九十五「マルク」ナリ

右ムンシエンノ放免囚徒救濟協會ト同様ナル協會重要ノ市府七ヶ所ニ振起シ地方協會ノ爲メニハ中央點ヲ爲スノ勢向アリ其中最モ重ナ

ルモノハヌルンスベルクニシテ三百名ト會員ト二ヶ所ノ救育所トチ有シ毎年ノ放免囚徒ヲ救濟ス

ブラウンシユヴァイクニ於テモ千八百七十七年以來ハ區郡共同ナル一協會アリ會員千四百八十人出金凡ソ二千六百マルクトス
ブレメンニハ千八百三十七年以來全ク宦衙ノ協力ナシ只同府人民ノ力ニ成リタル一協會起レリ會員凡ソ二百八十人出金額二千八百十五
「マルク」ナリ救濟事務ハ概テ監獄ノ宣教師ニ於テ之ヲ負擔シ殊ニ千五百
「マルク」ノ給料ヲ與ヘタル役員之ヲ執行ス千八百七十九年ニハ九十
八人ノ囚徒ヲ救濟セリ

ヘツセンダルクスタットニ於テハ囚徒救濟制度ハ司法内務兩大臣之ヲ定メ協會上ニハ一ツノ中央局アリ一人ノ委員及ヒ十八人ノ各區委員其事務ヲ掌ル會員七百四十二人アリ一人ニ「マルク」乃至四「マルク」出金

チ爲ス千八百四十一年同會設立以來九千五百九十八人チ救濟シ其六分ノ一(即チ千六百人)ハ改良ノ効チ奏セリ又此會ノ會規ニ由ルニ凡救濟チ受クル放免囚徒ニハ其本籍又ハ住所ノ地ニ於テ必ス一人ノ會員チ定メテ之チ監督セシムルモノトセリ

普國ノ制

普國ニ於テハボーセンノ一冊チ除クノ外ハ各州救濟協會ヲ設ケアラサル所ナシ

伯林ノ協會ハ會員凡ソ百五十八人中五十四人ノ會員ヨリ千四百「マルク」ノ出金チ爲ス

ブランデンブルヒニハ會員凡ソ百人千八百六十七年來一個ノ救育所チ設立シ放免囚徒ノ用ニ供ス
 フランクフォールトニ於ケル協會ハ極メテ微小ナレトモ其事業ハ却テ幼者チ容ルヘキ救育所ニ備ハレリ

ボストナムノ協會ハ會員凡ソ六十名アリ年々二十人乃至三十人ヲ救
助スハンノーベル州ニ於テハハンノーベル府ニ一協會アリ會員凡ソ
三百人リンゲン及ヒメッペンニモ亦一協會アリ會員二百五十四人トス
○又ハンノーベル州ニハハンノンベール放免囚徒救濟中央協會アリ
各地方ノ諸協會ヲ統理シ且ツ之ヲ扶助スト云フ

フランクフォールト、アムニオンニハ千八百六十八年來放免囚徒救濟ヲ
目的トスル一協會アリ兼テ又囚徒ノ家族ヲ救助ス會員六百十五人
ニシテ歲入凡ソ一萬「マルク」ナリ

ヴヰーニスバーデンニ檢事スタルケ氏ノ設立セル一協會アリ會員凡ソ
五百四十餘人アリ

ステツチンニハ千八百五十五年來一協會起レリ會員二百人ニシテ歲
出凡ソ三千七百「マルク」ナリ

クインツヒスベルヒニ於テハ千八百五十七年以來一協會アリ會員五百餘人アリ一ヶ所ノ救育所アリ囚徒ノ子弟ニシテ教育ナキモノヲ養育ス

ラインラント及ウエストフアレンノ州ニ於テハドツゼルドルフノ一協會エルベルヘルトリエールサールブルッケン、ハンムアウスベルヒ及ミンデンラーベンスプルヒノ十一ヶ所ノ女子協會四ヶ所ノ救育所及ヒ、三十ノ救濟會トス

サクセン州ニ於テハ千八百七十八年來エルフルトニ凡ソ二百七十余人ノ會員ヲ有スル一會アリ千八百七十七年以來ハマグデブルヒニ一ヶ所千八百七十三年以來ハルレニ一ヶ所ノ協會アリ共ニ放免囚徒ノ就業及ヒ救助ニ従事スレトモ現金ヲ以テ之レニ附與スルコトナシ又此協會ハ囚徒ノ家族ヲモ救助セリ

刑法/江木衷(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

61 (本来なら 71) ページ以降の講義録 (37 号以降) は非
所蔵